

渇水に対する水稻の管理技術対策

令和8年5月25日
本庄農林振興センター

冬期から続く少雨の影響により、下久保ダムの貯水率が低下しています。農繁期に向けて限られた用水を有効に活用するため、特に代かき時に最も多くの用水を必要とする水稻栽培における渇水対策技術資料を作成しましたので、参考としてください。

水稻

1 作付前

- ・畦畔や水尻等を点検し、モグラ穴や崩れ等を補修して漏水を防ぐ。
- ・円滑に通水するため、用排水路の補修や清掃・除草等を行う。

2 育苗管理（用水不足により田植が遅れるおそれのある場合）

- ・ムレ苗の発生が多くなるため、予防的に薬剤散布を行うとともに、風通しが良くなるよう管理する。
- ・育苗日数が長くなる場合は、田植10日前を目安に苗床から持ち上げて断根し、床面まで水を上げる（地床育苗）。
- ・植付けが正常に行えないほど苗が徒長した場合は、葉先を剪葉する。
- ・肥料切れにより葉色が低下した場合は、田植の3～5日前に苗代を落水してから、硫安等を窒素成分で箱当たり0.5gを500mLの水に溶かして施用し、施用後清水で洗い流す。その後、再度苗代に入水する。

3 代かき～本田初期

- ・ほ場が乾燥している場合は、週間天気予報を参考に降雨で土壤水分が高まるまで数日待ってから入水する。
- ・代かきはヒタヒタ程度の浅水で行い、水持ちを良くするためにていねいに行う。
- ・土壤に深い亀裂が入っている場合、水が行き渡りにくいため、水の届いた部分から徐々に代かきの範囲を広げていく。
- ・代かき後は田植時に落水しなくてもよい程度の浅水に管理する。
- ・田植後の除草剤処理は、深さ5cmの湛水とし、水尻をしっかりと止めて漏水を防ぐ。処理後1週間を目標にそのままの状態を維持する。途中、水が切れ田面が出るような時だけ静かに補給する。
- ・かけ流しは用水を大量に使用することから水不足を招き、かえって高温障害を助長する恐れがあるので絶対に行わない。

◎農作業中の熱中症にご注意ください。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0903/keieitai/nousagyouannzen/nettyuusyou.html>